



美祿地域における秋吉石灰岩による石造物のデジタルアーカイブ

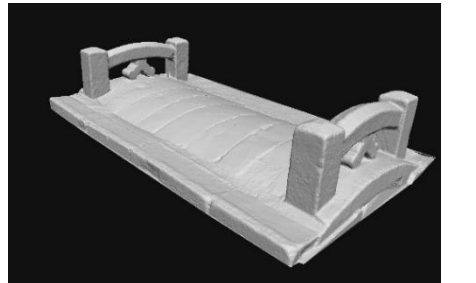
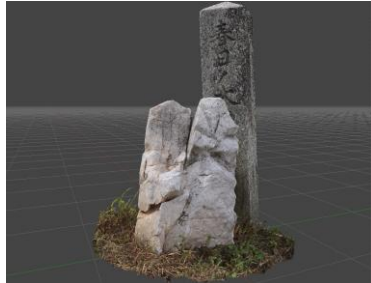
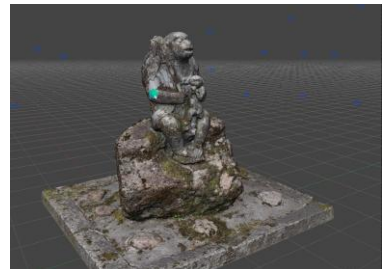
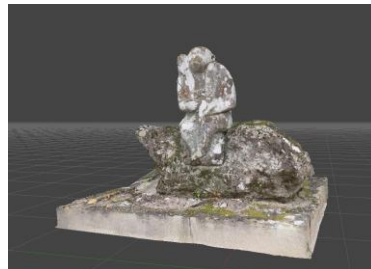
山口大学教育学部/ひと・まち未来共創学環 教授 熊谷武洋

秋吉台周辺では明治後期に大理石産業が発展し、「秋吉台の聖者」と称されるキリスト者本間俊平の長門大理石採掘所が拡大に寄与した。

当地には古来より石灰岩を用いた石塔・石像・燈籠など多様な石造物が存在するが、経年劣化や記録不足により判別や来歴把握が困難で、保全も十分ではない。

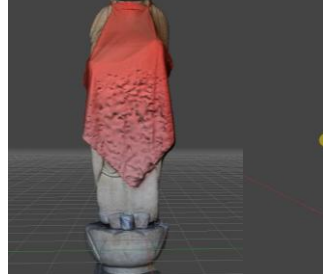
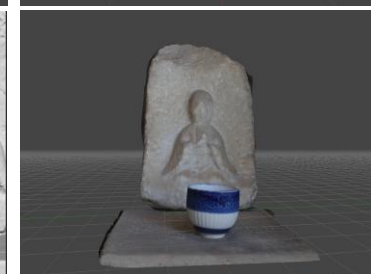
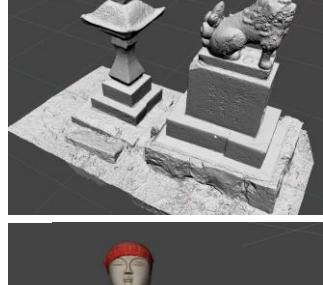
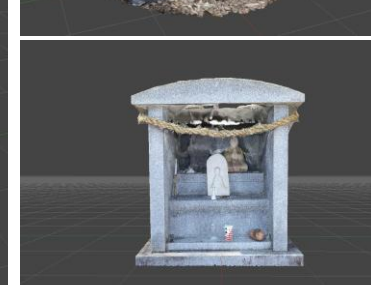
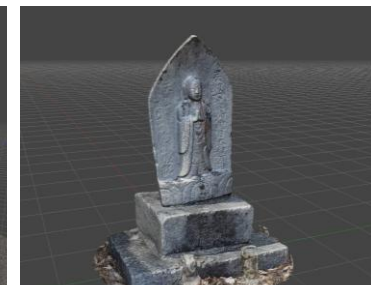
そこで青景、嘉万、秋吉、別府、伊佐周辺を対象にフォトグラメトリや深度カメラでデジタルアーカイブ化を行い、地域文化史の継承を図りその一部をメッシュデータとして記録した。

これらの成果として若年層の郷土愛の醸成、観光客への新たな視点の提供、ジオパークでの活用、カプセルトイ商品化、美祿メタバース地域コンテンツの拡充が期待できる。



● ①青景・②嘉万地域における狛猿や庚申塔等の石造物

● ②嘉万・③秋吉地域における石造物や灯籠、太鼓橋、階段等



● ④別府・伊佐地域にある祠堂内や地蔵等

● ⑤伊佐地域の地蔵や鳥居等

● 3Dプリント成型物群